

松田町の指定文化財



松田城址

松田大名行列



寒田神社

発行：松田町教育委員会
住所：松田町松田惣領 2037
電話：0465-83-7023

① 延命寺

薬師如来座像
聖観音菩薩立像
薬師如来立像



(町指定) 昭和 46 年 4 月 1 日
萬松山延命寺といい、開山は文明 4 (1472) 年、久野村総世寺 3 世宗箇和尚 (曹洞宗) です。開基は小田原北条氏の遠山丹波守直景です。

延命寺の観音堂の最初の建立は奈良時代とも言われ、鎌倉時代には水難のために沢尻に移り、さらに江戸時代なって元禄 16 (1703) 年には地震と洪水のため荒れてしまったので宝永 3 (1706) 年に現在の場所に移されました。

町指定の三仏像があり、最も古いものは「薬師如来座像」で鎌倉初期、御本尊の「聖観音菩薩立像」は鎌倉末期、「薬師如来立像」は室町時代前期の作とされています。

② 阿弥陀如来立像

(町指定)
平成 9 年 3 月 26 日



文明元 (1469) 年に最明寺が金子の地に移転する時に松田庶子の信徒が地域信仰の象徴として、現在の阿弥陀如来立像を作ったと伝えられています。それから 500 年以上にわたり松田全地域を巡回し、守護仏として信仰を集めてきました。現在では庶子地区 (旧庶子村) を中心に各戸を巡回し、今もその伝統が受けつがれています。

現在巡回中の仏像は小形のレプリカで本体は松田町民文化センター内のガラスケースの中に安置してあります。

③ 寒田神社



(町指定) 昭和 46 年 4 月 1 日

寒田神社は、平安時代中期の「延喜式神名帳」に記載された延喜式内社の一つで、相模の国では当社を含め 13 の神社が記されています。このように由緒ある神社ではあるものの、江戸時代前期の承応 3 (1654) 年の大洪水によって宝蔵庫などが流出したため、多くの文化財が失われてしまいました。それでも、当社にはケヤキ作りの御神宝椀 2 点が伝わっています。

また、日本武尊が東征の際に立ち寄ったという伝説もあり、境内には「腰掛石」が残っています。

④御神宝椀

高さ 8.8 cm 高さ 6.8 cm
口径 11.7 cm 口径 12.3 cm



(町指定) 昭和 48 年 12 月 1 日

御神宝椀は、弥生時代後期の神社創建時の作品で、2 個 1 組になった工芸品です。

材質はけやきで、塗の跡はなく、高台が特に高く、ろくろ目が粗く、表面がごつくて縄文のような感じです。

なお、全体の形はふっくらとして、量感に富んでいて格調が高く、稀に見る逸品です。

⑤松田町

だいましょうぎょうれつ
大名行列



(町指定) 昭和 46 年 6 月 10 日

明治のはじめ、小田原藩最後の殿さま(大久保忠良)の大名行列を見て、寒田神社の祭礼行事に入れようと「奴ぶり」の師匠から伝授されたのが始まりだと言われています。寒田神社祭礼の日に神輿や天狗の行列の中に加わって町中を巡行していましたが、戦後、行政と分離することになり、昭和 51 (1976) 年から「大名行列保存会」が運営することになりました。

弓、先箱、毛槍、大鳥毛の4つの道具が中心になる、いわゆる「奴振り」と呼ばれるもので、毎年、8 月下旬の松田観光まつりで町中を巡行しています。

⑥諏訪家

直刀及び鍬



(町指定) 昭和 46 年 4 月 1 日

庶子の諏訪宅より諏訪明神の祠があった場所から直刀や鍬などが出土しました。

その後さらに調査をした結果、円墳 2 基を発見、2 点の直刀と 3 点の刀子や鍬が出土しました

また、諏訪家には名前の通り長野県の諏訪大社との縁もあり玄関横に小規模ながら立派な社があります。



⑦大蔵院
四耳壺

三耳壺

長味壺



(町指定) 昭和 46 年 4 月 1 日

大蔵院は文殊山安養寺と号し本山修験宗の寺です。戦国時代の大永 7 (1527) 年の開山。本尊は不動明王で江戸時代中期の一本作りで、光背の炎には美しいカルラ(ヒンズー教のガルーダ神) 炎があります。

また、昭和 20 年頃に当院西側を開拓したところ、五輪塔の下より骨が納められた壺が 3 つ出土しました。

『四耳壺』は鎌倉時代前期、『三耳壺』は鎌倉時代、『長味壺』は鎌倉時代後期の作と推定されます。現在、県立歴史博物館に貸し出されています。

⑧ 縄文時代

たてあなじゆうきよあと
竪穴住居跡



(町指定) 昭和 48 年 4 月 1 日

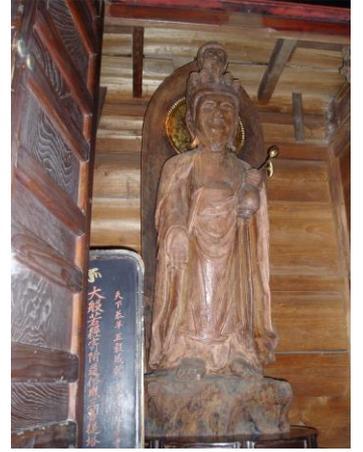
昭和 47 (1972) 年、庶子の澁谷宅で裏庭の工事の為、地面を掘り下げたところ竪穴式の敷石住居跡と縄文時代中期土器の一部や鏃、石器が出土しました。

また、この近くでやはり敷石の一部等が確認されているため、集落があったであろうと推測されます。



⑨ 桜観音 (宝寿院)

十一面観音立像



(町指定) 昭和 46 年 4 月 1 日

かつては「長谷山観音寺」と言い、本家は奈良県の長谷寺で、鎌倉の長谷寺とも深いつながりがあるとされています。

本尊は「十一面観音菩薩立像」で平安期に作られ高さ 135 cm、頭部に 11 の仏面をいただいたものです。堂内の欄間の彫刻は飛天と雲中供養菩薩の見事なものです。

桜観音の名のいわれは、前を通る国道 246 号線沿いに見事な桜並木があった名残り、いつ頃からか地域の人々にそう呼ばれています。

⑩ 松田城址

(町指定)
昭和 46 年
4 月 1 日



小田原北条氏時代、この周辺を領有していた松田新次郎康隆によって築城されたものと言われています。武田氏や上杉氏の攻撃に備えたためや、豊臣秀吉の総攻撃に対する防備を整えた城郭ではないかと考えられます。

城山地区から多数の遺物が出土し、地名にも門の脇、厨屋畑、高屋敷、城山等があり現在もこの地名が使われています。今はほとんどがみかん畑ですが、山城であった事が地形からも推測できます。

8 月の観光祭で行われる「百バツ火」は、一説に松田城落城の際に落武者を導くために焚いた送り火と言われますが、全国的に行われる「虫送り」の行事の一変形と思われる。

⑪ 最明寺跡

(町指定)
昭和 46 年 4 月 1 日



走湯山 (伊豆山) 権現の別当でもあった浄蓮坊源延上人は、承久 3 (1221) 年、当時の松田郷を支配していた大庭景義の招きもあり、松田山山頂に一字の堂を建立し、善光寺如来を安置し、開山となりました。

第二世覚阿上人の代の建長 2 (1249) 年、時の執権最明寺入道北条時頼は相州善光寺如来を信奉、さらに堂宇を建立寄進し、この寺を西明寺 (江戸時代の頃からは最明寺と名乗る) と名付けました (風土記より)。

その後の鎌倉期には更に西明寺は隆盛し、山内には数多くの堂閣が立ち並んでいたといえます。室町時代頃以降は寺運衰退の道をたどり、文明元 (1469) 年大井町金子の地へ移りました。現在も 4 月 8 日に祭礼が行われています。

⑫ 古代瓦

やき あと
焼がま跡



(町指定) 昭和 46 年 4 月 1 日

東名高速道路建設の際、松田庶子・河南沢西隣の唐沢の斜面から発見され、全国でも類を見ない程完全な形で、昭和 44(1969)年に掘り上げられたもので、これを最明寺跡に復元・移設したものです。

入口は人が中腰でやっと入れる位ですが、その内側は約 8 畳間位の広さで人が立って歩ける程度です。

9 段の登り窯式のものですが、ここから千代寺院跡出土の瓦と同じ文様の「布目瓦」や「軒丸瓦」の破片が多数出土し、製作年代は奈良時代と推定されます。

⑭ 大銀杏

(町指定)

昭和 46 年 4 月 1 日

寄神社の拝殿に向かって左手前に、いちょうの古木が立っています。この木は周囲 6.3m、高さが約 30m (平成 25



(2013) 年 10 月の台風により倒木、上部を切り落とし高さ約 5m で植え直した)。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』によると、「源頼朝は正室政子の出産に当って、相模国の十か寺に祈願のために特使を参拝させた。」と記されています。弥勒寺(旧名称)もその一寺で、いちょうの木はその時に奉納されたものと言われていす。なお、数百年に及ぶ生育の中で、堂宇の火災による類焼を受けたが、脇芽が生き延び成長しました。根本の『うろ』は災害に耐えてきた老木の姿であって、畏敬の念を感じさせます。

⑬ 大 杉

(町指定)

昭和 46 年 4 月 1 日



寄神社入口に立つ大杉は、道路が左カーブする角の所に当るので、遠くからでもその雄姿が眺められ、寄のシンボルになっています。

幹まわりが 6.4m、高さが約 30m とも言われ、幹の中央部から 4 本の枝を伸ばして見事な樹形を作っている名木です。推定樹齢が 500~600 年と言われ、昭和 59 年には「かながわの名木百選」にも選ばれています。

⑮ 寄 祭囃子

(町指定) 昭和 59 年

5 月
23 日



寄神社の祭礼は、3 月の第 1 土曜日に、1 年の豊作と住民の無事安全を祈願して、地域をあげて行います。

この祭典の日に神輿の御渡りに伴って演奏される「祭囃子」は郷土の芸能として受け継がれている物です。地区毎の 4 つの屋台で演奏され、地区へ出向いての演奏の後に、神前に戻って奉納演奏が行われ、祭礼の幕が閉じられます。

現在は、若葉まつり、観光まつり、文化祭、開成町あじさい祭の中でも演奏されています。